

## バイステックの7原則について

アメリカのケースワーカーで社会福祉学者のフェリックス・バイステックの著書『ケースワークの原則』で記されたケースワークの原則で、現在のケースワークの基本とされている。

### 原則1 個別化の原則 「クライアントを個人としてとらえること」

人は、一人の個人として認められ不特定多数の中の一人としてではなく、独自性をもつ一人の人間として対応されるべきという人間の権利に基づいた原則

### 原則2 意図的な感情の表出 「クライアントの感情表現を大切にする」

感情表現の自由を認める原則。特に抑圧されやすい否定的な感情の表出について、妨げたり非難したりするのではなく、耳を傾け、クライアント自身の気持ちに気が付くことが大切。

### 原則3 統制された情緒的関与の原則 「援助者は自分の感情を自覚して吟味する」

ワーカー自身がクライアントの感情に呑み込まれないようにする。クライアントの感情に対する感受性を持ち、その感情を理解したうえで、自らの感情を統制して接し、目的を意識しながら、クライアントの感情に適切に反応していくこと。

### 原則4 受容の原則 「受けとめる」

クライアントの人間としての尊厳と価値を尊重しながら、健康さと弱さ、好感をもてる態度ともてない態度、肯定的感情と否定的感情、建設的な態度・行動と破壊的な態度・行動を含めありのままの姿で捉える。

### 原則5 非審判的な態度の原則 「クライアントを一方的に非難しない」

クライアントの行動や思考について、ワーカーが善悪を判断しない。

### 原則6 自己決定の原則 「クライアントの自己決定を促して尊重する」

クライアントが自己の生活について自ら決定する権利を有していることを認識し、自己決定能力を自ら活性化するように刺激する責務をもっている。

### 原則7 秘密保持の原則 「秘密を保持して信頼感を醸成する」

### 資料③ 用語説明

クライアントの個人情報や打ち明け話等を他方にもらさない、ワーカーの倫理的義務である。ラポール（安心して交流できる信頼関係）を形成する。

## ブラッドショーのニード（ニーズ）の4類型について

ニーズ：「必要」とは何か。

何かが必要であるというときに、何らかの望ましい状態というものが想定されており、その状態の中で何かが欠けているために実現できない。すなわち、必要という言葉は、かけている何かを手に入れて、望ましい状態を実現すべきであるということが言外に含まれている。

必要の判定：主観的必要と客観的必要

何らかの望ましい状態は、何らかの価値観が前提とされている。価値観は人それぞれだが、人々は社会の構成員でありある程度何らかの共有化された価値判断が存在する。そうした共有化された価値判断に基づいて望ましい状態が明らかになったとしても、その状態を実現するためには何が必要かということについて誰がどのような基準に基づいて判断すればよいか。

◇主観的な必要：自らの感じ方や考え方に基づいて行う場合

◇客観的な必要：第三者によって利用者の意思をこえた客観的な基準に基づいて行われる

### ブラッドショーが分類した4つのニード論

#### 感じ取られたニード（フェルト・ニード）

個々人に感じられたニードいわゆる欲求をいい、本人が自覚しているもの

#### 表出されたニード（エクスプレスト・ニード）

感じられたニードを満たそうとして、他人にわかるように行動に表されたもの

#### 規範的ニード（ノーマティブ・ニード）

価値基準や科学的判断に基づいて、確認されているニード

#### 比較ニード（コンパラティブ・ニード）

他人や他の集合体の状態との比較に基づいて存在するニード

前二者が主観的であり、後二者が客観的であるとされる。

## マズロー 5 段階欲求とは

欲求とは、何らかの欠乏あるいは不満を感じている状態であって、その個人が自分自身を維持したり支えたりするために、何かを必要としている状態のことである。

人の内部にあって、人の行動を引き起こすものである。

人の行動は、欲求⇒動因（動機）⇒誘因（目標）⇒行動という一連の要素と過程を含んでいる。 ※動因：人の内部から湧き上がるもの、誘因：人の外部にあるもの

欲求には一次的欲求と二次的欲求がある。生理的欲求と心理的あるいは社会的欲求とも呼ばれている。

一次的欲求（生理的欲求）は、食事、睡眠、排せつなど生存に不可欠な基本的欲求

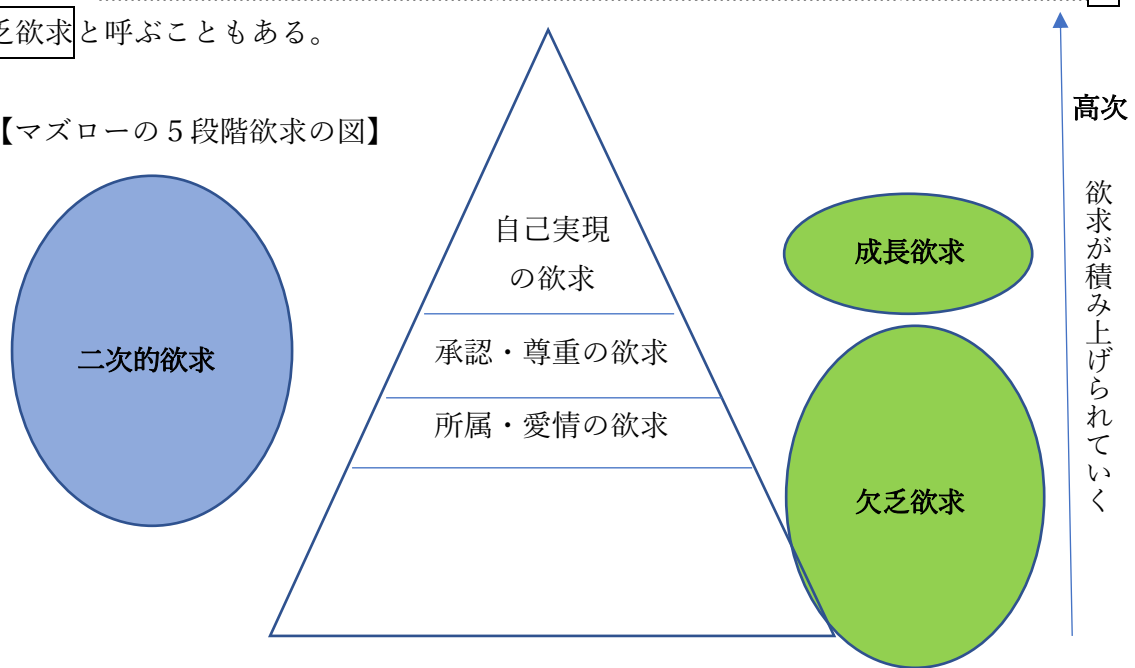
二次的欲求（社会的欲求又は心理的欲求）は、一次的欲求以外の多岐にわたる欲求である。

しかし、二つの分類だけでは、その性質や関連性をとらえづらいこともある。そこで、マズローは、欲求を 5 段階の階層で整理した。これが、マズローの 5 段階欲求、欲求階層説である。

5 つの欲求が、ピラミッド状に基底部から上層部へ積み上げられていく。

一次的欲求である生理的欲求は最も基底部の層にあり、ほかのあらゆる欲求より優先される。それが満たされるとより上層の欲求である二次的欲求が派生していく。次第に人間らしい社会的な欲求が高まっていく。最上階の自己実現の欲求は成長欲求と呼ぶのに対して、その他の四つの欲求は何か欠けることで、欲求不満を引き起こすことから欠乏欲求と呼ぶこともある。

【マズローの 5 段階欲求の図】





安全・安定の欲求

※ 生理的欲求

低次

※生存に不可欠・最優先の欲求